

宮坂建設工業が除雪作業 安全運転への意識高めて

交通安全地蔵尊周辺をきれいに



そうした活動を通じて、社員のみならず、沿線を通行するドライバーが「少しでも交通安全に対する意識を高めるきっかけにしてほしい」という願いが込められている。

十八日から十九日にかけて道内を襲った低気圧の影響で、十勝管内においてもまとまった降雪があった。特に、帯広空港近くでは、六十センチほど雪が積もっていたことから作業を行った。

【帯広発】宮坂建設工業(株)(帯広、宮坂寿文社長)は二十二日、地域貢献の一環として、帯広空港線沿いの「新西国三十三番観世菩薩交通安全地蔵尊」周辺で除排雪作業を行った。写真。十八日から十九日にかけて、空港周辺では六十センチのまとまった降雪があったため、手分けして雪かきを実施。付近を通行するドライバーが交通安全地蔵尊を見かけ、安全運転に努めてもらえるよう作業を進めた。

道道帯広空港線沿いの「新西国三十三番観世菩薩交通安全地蔵尊」の除排雪作業は、帯広・広尾道の施工をきっかけに始めた地域貢献活動で、今では毎年

今期2度目の 除排雪奉仕

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業(本社・帯広、宮坂寿文社長)は22日、市内大正町にある新西国三十三番観世菩薩交通安全地蔵尊周辺で、今期2度目となる除排雪の奉仕活動をした。写真。



て大雪が降ったため、早朝から作業に取り組んだ。十八人が参加し、タイヤシヨベルやダンフ3台を使い、雪山を一掃した。木幡彰夫土木部長は「この地域から少しでも交通事故を減らしたい。春まで長い間、降雪があれば作業に駆け付けた」と話していた。

2004年から実施している。道道帯広空港線沿いにある地蔵尊周辺は大型車両などの交通量が多い。雪山が積もり、交差点の見通しが悪くなる。市内では、低気圧の通過で18日から19日かけ